

## 東北大学附属図書館報

## 木這子

BULLETIN OF  
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

—木這子（きぼこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）—

## 館報の発刊に寄せて

図書館長 和田 正 信

昨年12月1日図らずも附属図書館長を拝命することになり、爾来4カ月余を経過した。大正5年6月に東北帝国大学に図書館が設置されて以来すでに60年を経ているが、初代の館長が理学部の林鶴一博士であったことを除けば、大正13年以来ずっと法文学部、さらに文教法経・学部の教授が交替で館長をつとめてこられた。本学ではこれが当然のこととして受けとめられてきた。

しかし、図書館の規模が大きくなり、内容が充実してくるにしたがって、学内共通経費に依存する図書館経費が大きくなり、図書館に対する自然科学系と人文社会科学系の理解に食い違いが現われだしてきた。

大学と名がついている限り、附属図書館を有していないところはない。これは大学設置基準という法的な規制にもとづいているものではあるが、たとえこのような規制がなくても当然設置すべきもので、大学には不可欠のものである。図書館の整備内容がその大学の研究・教育における活動を象徴的に表示しているものであるといっても過言ではあるまい。

その意味からも附属図書館に対する認識を変え、深めていく必要があり、その運営についても再検討が必要とされるようになってきた。これはたんに財政的な問題だけではない。このため全学の図書館という認識にたって自然科学系も図書館運営の責任の一端を担うことになり、その役目が私にまわってきたものと考えている。

人文・社会科学系は図書資料がかなりよく附属図書館に集約、管理されているが、自然科学系はかなり細分化されて分散配置されている。それぞれ学問自体の性格、研究手法の違いがあるので、物理的に一カ所に置いて管理することがよいことにはならない。

しかし、一方では情報は集中管理をよくし、誰でも、どこでも、利用できることが望ましく、このため図書館の間の相互利用をさらに一段と進めていかなければならないという使命もある。

東北大学の研究者の立場も考えながら、外部の利用者の便も図っていくことは口でいうほど簡単な問題ではない。

何はともあれ、まず大切なことは図書館業務に当たっている人たちの間の意志疎通であり、図書館利用者に図書館の立場を理解してもらうことが必要である。それらを通して利用者の考えを理解していかなければならない。

このような意味で、しばらく休刊していた「図書館通信」は廃刊され、改めて「東北大学附属図書館報」を発刊することになった。前述のような意味でこの館報が活用されることを期待していると同時に、素人館長の私自身、自分の仕事に対する理解を深めていきたい。多くの人たちによって「素晴らしい図書館」といわれ、利用される日の近いことを願いつつ。



# 本館の利用状況(昭和49年度)

昭和48年11月に全面開館した東北大学附属図書館本館(新館)の新しい活動のうち、特に利用者サービスの進展に関して、閲覧各部門において昭和49年度から利用状況の継続的な調査が始められている。この調査により得られた統計データは、昭和50年11月に「中央図書館の利用状況について、一昭和49年度利用統計一」にとりまとめられ発表されているが、主として統計表のみ掲載され、読みにくい面もあることから、その概要について説明を加えてみることにする(詳細は本統計表参照のこと)。昭和50年度の利用状況調査もとりまとめられつつあり、公表する予定である。

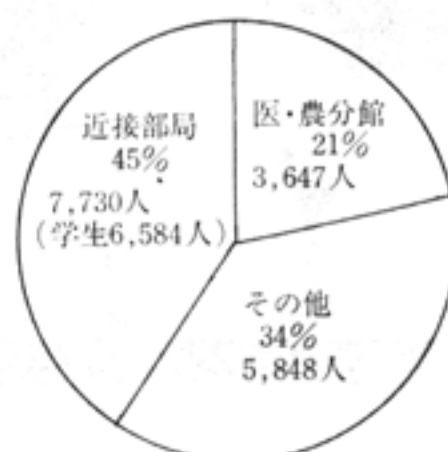
## 1. 利用対象者

大学図書館の利用対象者は大学構成員である学生、大学院学生、教官、職員であり、本館は中央図書館としての役割から、これら全学構成員を原則として利用対象者としているが、医学分館、農学部分館がその専門領域に関する利用対象者にサービスを展開していること、及び自然科学系の各部局ではキャンパスが本館と離れていることもあって、部局図書室において一定の活動を展開していることなどから、本館では近接部局である文科系四学部(文・教・法・経)及び教養部に属する各構成員が近距離の利用対象者であるといえる。

利用対象者(大学構成員)の昭和49年5月1日現在の学生在籍数及び教職員現員数は東北大学学報によると全学総数は17,225人であり、構成員別の内訳は次のとおりである。

|        |         |
|--------|---------|
| 学 生    | 10,025人 |
| 大学院学生  | 1,729   |
| 教 官    | 2,228   |
| 事務官その他 | 3,243   |
| 計      | 17,225  |

全学総数のうち、分館(医・農)利用対象者を除く数は13,578人であり、近接部局利用対象者は7,730人(内学生6,584人)である。これらの比率を円グラフにすると次のようになります。



## 2. 入館券登録状況

入館は入館券を玄関で提示する方法をとっており、昭和49年度から本館利用希望者に対して申請に基づき入館券の交付を新しく行った。この申請により図書貸出券も併せて発行しており、本館の利用を希望する者は入館券を登録し所持していることになるので、入館券の登録状況は利用する意志をもつ者の状況を表わしていることになる。

入館券登録状況のうち学生の登録率(在籍数と登録者数の比率)は42%であり、その内訳は次表のとおりである。この表をみると文科系4学部の学生が61%で最も多く、次に教養部学生の半数が登録している。なお学部の中では文学部学生の登録率が最も多く79%である。教養部学生の中では文学部系学生が67%で最も高く、60%を越す医学部系、薬学部系、法学部系と続いている。

|                      | 登録者数<br>(人) | 登録率<br>(%) |
|----------------------|-------------|------------|
| 教養部学生                | 2,595       | 51         |
| 学 部 学 生              | 1,640       | 32         |
| (内訳)                 |             |            |
| 文科系4学部               | 1,000       | 61         |
| 理・工・薬学部<br>(青葉山地区)   | 591         | 23         |
| 医・歯・農学部<br>(星陵・雨宮地区) | 49          | 6          |
| 計                    | 4,235       | 42         |

教官の登録率は全体で11%と低い率を示しているが、文科系4学部はそれぞれ40%から70%(台)、教養部は30%に近い登録率となっている。教官の登録率を更に高める努力が必要であろう。また大学院学生は14%であるが、特に文学部は82%を示している。

### 3. 入館者数

本館の開架図書閲覧室、指定書閲覧室では毎日多くの学生諸君が読書をしており、特に試験期などは満席となり、座席の確保のため9時開館の時には長蛇の列ができる状況もあり、1日の入館者数が3,000人を超えることもある。入館する学生数については年に7回の入館者数調査を昭和49年度から実施しており、その結果によると学生は1日平均1,527人の入館者があり、調査しない教官、院生、事務官の入館者数を含めて約1,600人は入館していると推定される。年間では開館日数290日であることから入館者総数では464,000人と推定される。

#### (1) 1日平均入館者数

1日平均の入館者数について見ると、教養部学生は916人で、このうちでは工学部系が最も多く257人、法学部系148人、理学部系138人と続いている。学部学生は611人で、このうち法学部が199人で最も多く、次いで経済学部、文学部であり、その次に青葉山地区の工学部学生が1日70人となっている。入館者のうち川内地区(教養部、文科系4学部)の占める比率は92%と多くなっている。

#### (2) 1人当り入館回数(学生)

1人当りの年間入館回数は全体では44回である。教養部については54回であり、このうち法学部系、文学部系が80回を超え、経済学部系、理学部系がこれに続いている。学部学生は35回であり、そのうち法学部98回が最も多く、文科系4学部平均では85回となっている。また、入館券交付のない学生の入館数は少ないものとして無視し、入館券登録学生について入館回数を算出すると全体では105回であり、法学部登録学生は年間181回も入館していることになる。

(表1) 開架図書(学生・学部別)貸出冊数

| 開架<br>圖書 | 区 分 |     | 文学部   | 教育学部  | 法学部   | 経済学部  | 理学部   | 工学部   | 農学部   | 医学部   | 歯学部 | 薬学部 | 計      |
|----------|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|--------|
|          | 人員  | 比   | 16    | 5     | 16    | 10    | 19    | 20    | 5     | 4     | 1   | 3   | 100    |
|          |     | 人   | 3,887 | 1,271 | 3,824 | 2,336 | 4,513 | 4,857 | 1,254 | 955   | 166 | 688 | 23,751 |
|          |     | 冊 数 | 4,760 | 1,609 | 4,743 | 2,880 | 5,724 | 5,995 | 1,577 | 1,179 | 199 | 898 | 29,564 |

(学部・教養部の利用全学生を学部別に区分した)

(表2) 指定書学部別利用統計

| 区 分 | 文学部 | 教育学部 | 法学部   | 経済学部 | 理学部 | 工学部 | 農学部 | 医学部 | 歯学部 | 薬学部 | その他 | 計      |
|-----|-----|------|-------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|
| 教養部 | 136 | 80   | 388   | 281  | 639 | 505 | 525 | 285 | 38  | 197 | 4   | 3,078冊 |
| 学部  | 81  | 85   | 1,164 | 451  | 101 | 34  | 15  | 0   | 1   | 2   | 0   | 1,934  |
| 計   | 217 | 165  | 1,552 | 732  | 740 | 539 | 540 | 285 | 39  | 199 | 4   | 5,012  |

### 4. 閲覧・貸出

#### (1) 閲覧統計

図書の閲覧については、開架図書と書庫内図書があり、開架図書は約6万冊の学生用図書が自由に利用できることからその閲覧冊数は多量になる。特に室内での自由閲覧については返却台に返却された図書冊数を調査した結果、1日平均344冊となる。また開架図書閲覧室以外の館内での閲覧冊数は1日平均8冊であり、この両者を加えた冊数に開館日数290日に乗ずると年間の開架図書閲覧室の閲覧図書冊数が102,080冊となる。

$$(344冊 + 8冊) \times 開館日数290日 = 102,080冊$$

これに書庫内図書の閲覧図書冊数(年間)7,038冊を加えて、1年間の推定閲覧図書冊数は約11万冊となる。

#### (2) 貸出図書冊数

貸出される書庫内図書、開架図書の年間総数は32,489人により51,549冊であった。この利用者別の内訳は次のとおりである。

利用者別区分

| 区分 | 学 生    | 院 生   | 教職員    | その他 | 計      | 備 考   |
|----|--------|-------|--------|-----|--------|-------|
| 人員 | 25,977 | 3,142 | 3,207  | 163 | 32,489 |       |
| 冊数 | 32,314 | 8,401 | 10,344 | 490 | 51,549 | 雑誌を含む |

この表の学生貸出冊数32,314冊のうち開架図書貸出冊数は次のとおりである。(表1) 最も多いのは工学系であり次が理学系となっている。

#### (3) 部局別備付図書

文科系4学部に備付ける図書の年間貸出冊数は8,067冊であり、内訳は次のとおりである。

文学部4,909 教育学部1,621 法学部1,030 経済学部507

#### (4) 指定書

指定書は年間閲覧冊数が5,012冊、1日平均17冊であり、その内訳は次のとおりである。(表2)

教養部では理学・工学が多く、学部では法学が特に多く経済がこれに続く。

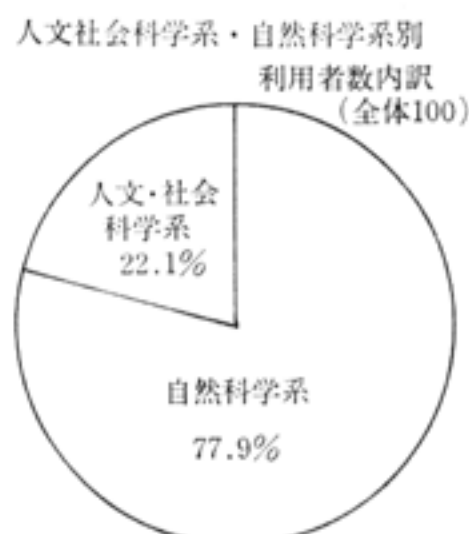
## (5) 入庫者

院生以上は書庫に入庫できるが、年間では4,994人、1日平均17人が書庫に入っており、このうち61%が院生である。

## 5. レファレンス

レファレンスデスクで応答した総件数は3,485件、1,981人であり、月平均で290件である。その内訳は次のとおりであるが、78%が自然科学系の利用者である。

|              | 教 官 | 院生・学 生 | 図書室   | 合 計   |
|--------------|-----|--------|-------|-------|
| 人文・社会科学系 (人) | 136 | 289    | 12    | 437   |
| 自然科学系(人)     | 95  | 282    | 1,167 | 1,544 |
| 合 計          | 231 | 571    | 1,179 | 1,981 |



この統計には、簡単な質問への回答（クイックレファレンス）は含まれていない。

## 6. 文献複写

年間の文献複写実績は2,689件で81,142枚であり、金額にすると2,679千円になる。このうち学内では1,714件1,083千円で、学外は975件1,596千円である。

## 文献複写料金の改訂

本館では電子複写機（U-Bix）、マイクロフィッシュ撮影機等を備え、複写サービスを行っているが、3月27日付、文部事務次官通知により、複写料金が次の表のように改訂され、4月1日から実施されることになったのでお知らせします。

なお、学内部局等の依頼により、その経費を移算する場合についても、この新料金表が適用されます。

文献複写新料金表 51.4.1改正

| 種 別         | 単位      | 料 金  |            | 備 考       |
|-------------|---------|------|------------|-----------|
|             |         | 学内者  | 学外者        |           |
| 電子複写方式      | B4判以下   | 1枚   | 円40<br>円45 |           |
| マイクロフィッシュ方式 | フィルム撮影料 | 1シート | 380        | 430       |
|             | タイトル撮影料 | 1件   | 25         | 25        |
| マイクロフィルム方式  | 基本料     | 1件   | 100        | 100       |
|             | ネガフィルム  | 1コマ  | 15         | 20        |
|             | 特殊撮影料   | 1コマ  | 10         | 10        |
| リーダープリント    | B4判以下   | 1枚   | 40         | 45 本館はA4判 |
| 引 伸 料       | A5判     | 1枚   | 50         | 60        |
|             | A4判     | 1枚   | 100        | 110       |
| 送 料         |         | 実 費  |            |           |

## 「石津蔵書」の受贈

本コレクションは、宗教哲学の権威であり、宗教哲学の領域における独創的な体系を樹立された碩学の故石津照鑑元学長（1903～1972）の愛蔵コレクションであって、このたび文学部宗教学研究室楠主任教授を介して、ご遺族のご厚意によって本館が寄贈を受けたものである。これは、先生が多年にわたって苦心収集されたもので、この中には、天台教学を中心とする日本、中国の仏教学の古典およびその基礎的研究書をはじめ、西洋近代哲学の名著や雑誌が含まれており、その冊数は和漢書約4,000冊、洋書約1,000冊にのぼる。

このコレクション内容の特色は、仏教書、天台教学に属する研究書、ドイツ宗教哲学、ことにヘーゲル、キルケゴール、フォイエルバッハ、フッセル、シェーラー、ハイデッガーなどに関する資料を中心とするもので、そのうえに、宗教心理学、宗教社会学、宗教人類学、宗教民族学、精神医学等、宗教の科学的研究と哲学的研究に関する図書が豊富に集められていることである。これらの資料は、故石津教授の宗教哲学の学風を偲ばせるものであるが、同時に現代宗教哲学の問題と方

向を示すものとして興味深いものがある。また、先生ご自身の「書入本」の多いことも特色の一つと言えよう。

本館では、西藏大藏經カムデルゲ版、狩野文庫、ヴント文庫などを中核とする10数個の特殊文庫を所蔵しているが、このコレクションも「石津文庫」として特殊資料扱いにし、一般蔵書と区別して書庫に仮配架している。現在整理中であり、後日書冊目録を作成する計画である。

## 国立大学図書館東北地区協議会

東北地区の国立大学附属図書館によって組織されているこの地区協議会は、各地区順を追って毎年秋期に総会を開き協議をおこなってきたが、今年より春期に総会を開催することになり、当番館の宮城教育大学において、第7回地区協議会総会を下記のとおり開催することになった。

期 日 昭和51年5月6日～7日

会 場 宮城教育大学会議室

協議題

- 1) 現在までの要望事項で未解決のものの取扱いについて (宮城教育大学)
- イ 事務長補佐の設置について
- ロ 図書館維持費の増について
- ハ 小規模大学における図書館職員の待遇改善について
- 2) 昭和52年以降の国立大学図書館協議会への報告について (東北大学)
- 3) 次期当番館について (宮城教育大学)

談話題

- 1) 指定図書の利用について (岩手大学)

## 昭和50年度大学図書館職員

### 総合研修会の開催

標記研修会が、昭和51年2月26日(木)午後2時から附属図書館大視聴覚室において開催された。

年一度学外から有識者を招いて、図書館にとって最も清新かつ切実なテーマを依頼してお話を聴くこととなっているが、本年は「最近の欧米大学図書館における新しい動向」について、昭和49年欧米各地の大学・公共図書館を歴訪された、東京大学教育学部助教授長沢雅男氏の来仙をわずらわすことになった。

村岡事務官の司会で、和田図書館長の挨拶、講師紹介があり、講演は、Ohio College Library Center のことを主に話され、又 Mechanized Information Center (機械化情報センター) のこと等、これからの図書館事務への指針的なお話が2時間余にわたって行われ、全学の図書館・図書室はもとより、在仙各大学の館員も多く参会され、栗原事務部長の謝辞とともに、盛会裡に終わった。

なお講演は、テープに収録され附属図書館に保管してある。

## 東北大学記念資料室だより

本室の英訳名は、Tohoku University Archives である。東北大学公文書館あるいは大学史関係資料館といったところで、図書館(Library)とは別個の、いわば兄弟のような組織である。ヨーロッパやアメリカの歴史を誇る諸大学には、いずれも立派な此の組織があるが、日本には残念なことにまだ例がない。

本学では1956～60に「東北大学五十年史」が編纂され、そのとき各部局はもとより包摂された旧制二高や仙台工専などの、良質な資料が集積されたのを機会に、当時の館長世良晃志郎教授の英断で設置された(1963)。今日まで多くの資料を収集し、また編纂刊行し、本学はもとより全国の大学史、学術史、教育史の研究のためのセンターとして働いている。

人員は、室長に附属図書館長和田正信教授、副室長に原田隆吉助教授、室員に坪井一助手、新田孝子助手、石田義光事務官がおり、新図書館の2階に展示室を開いている。本学も今年は創立70年に達した。本室もここで大きく飛躍をとげたいと願っている。

## 新しい利用案内の発刊

学生のための図書館利用案内（1976年版）が作成された。「利用案内」は主に、新入生の本館利用のための手引書として新営本館が全面開館した翌年の1974年から毎年作成されている。1976年版は必要な最少限の基本的事項について、簡潔に説明されており、表紙は本館所蔵浮世絵「仙台芭蕉の辻」の美しい色彩刷で、その内容は次のとおりである。

開館時間等、利用のために、はしがき、館内略図、閲覧室などの利用（開架図書閲覧室、指定書閲覧室、閉架図書、レファレンス・サービス、文献複写と相互利用）、図書の検索（目録検索、カードの見方、分類表）、附属図書館の概要と組織。

## 海外研修

本館閲覧課参考調査掛長及川三千夫事務官は、昭和50年9月10日から昭和51年3月20日まで、ロンドン大学に於いて、英国における研究図書館のレファレンス・サービスに関する研究に従事し、この程帰国した。

## ＊行事予定＊

5月6日～7日

第7回国立大学図書館東北地区協議会総会開催 於宮城教育大学

6月4日～5日

国立大学図書館協議会第23回総会開催  
於名古屋大学

## 編集後記

本館が永年継続発刊して来た図書館通信（月刊）はこの程、いろいろな館内事情により廃刊され、本年4月1日から改めて図書館館報（副題木這子）として発行することになりました。年4回の発行予定で、掲載内容は主として業務報告並びに予定行事等であり、今後本館が図書館活動をどのように行なっていくかを広く学内外にわたり知って頂き、ご協力をお願いするとともに、良いサービスを通して図書館業務の改善と発展に寄与することができればと祈念しているところであります。本号はいわば創刊号であり、巻頭に館長の就任の挨拶があります。初代館長林鶴一教授以来跡絶えていた自然科学系より選出された館長としての抱負の一端が伺われることになります。前「通信」同様宜しくお願いいたします。なお、編集委員は次の通りです。

委員長 栗原 一郎（事務部長） 委員 村岡 徹（参考調査掛） 沼田 恵美（洋書目録掛）  
細谷 伸枝（和漢書目録掛） 松井 好次（閲覧掛） 事務担当 企画渉外掛

東北大学附属図書館報「木這子」 第1号 昭和50年4月30日発行

編集委員 栗原一郎（長）、村岡 徹、沼田 恵美、細谷 伸枝、松井 好次

発行人 栗原 一郎 発行所 東北大学附属図書館 仙台市川内 電話 代表 22-1800 (5158)